

提言第 11 号「肝生検に係る死亡事例の分析」

Web アンケート実施概要

1. Web アンケートへ変更する目的

以下の目的で書面のアンケートから Web アンケートに移行する。

① アンケート業務の効率化

アンケート実施にあたり医療機関への郵送、返送された回答の整理、データ入力業務を業者委託しており、Web 上でデータを得て集計することによって業務を効率化する。

② 医療機関の回答率を上げる。【組織向けアンケート】

提言第 1～10 号について医療機関の回答率は、10%前後であった。ネット環境があれば、簡便に回答できる Web アンケートに移行し、医療機関からの回答率を上げる。

③ 臨床の医療従事者から提言書に対する意見を広く求める。【個人向けアンケート】

②同様に、Web アンケートを採用して、臨床の医療従事者を対象に提言書に対する意見を広く意見を求め、提言の活用に役立てる。

2. 対象となる提言

提言第 11 号（2020 年 3 月公表）

3. アンケート実施期間

2022 年 2 月 1 日～3 月 25 日【組織・個人】

4. アンケート項目の内容

<これまでのアンケートの項目と異なる点>

- ① 医療機関が院内体制の改善に取り組むことや院内で周知することが難しい要因を把握する【組織】。
- ② 各提言が医療機関のどの部門で役立っているか把握する【組織】。
- ③ 臨床の医療従事者から提言に対する意見を収集する。

5. 回答対象者

- ①【組織】1 医療機関 1 回答。医療機関の医療安全部門。
- ②【個人】提言書を読んだ臨床の医療従事者、制限なし。

6. 周知方法

提言第 15 号の冊子に同梱し、アンケート依頼状およびチラシを送付。

- ①【組織】アンケートサイトの URL を掲載。
- ②【個人】アンケートサイトの URL と二次元コードを掲載。医療安全部門から周知を依頼。

7. 実施方法

ホームページを経由して回答を入力する。

- ① 【組織】 ID、パスワードの入力が必要。
- ② 【個人】 フリーでアクセス可能。

8. 集計結果

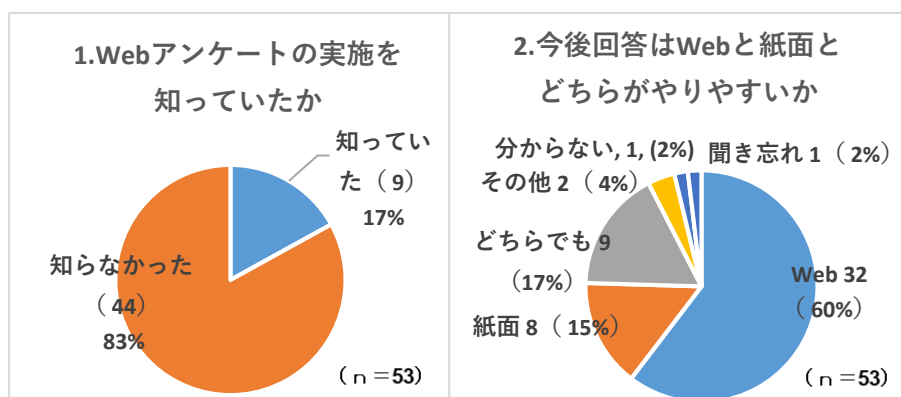
	アンケート案内状 送付数	回答数	Web サイト アクセス数
① 【組織】	8,256	154	347
② 【個人】	8,256	40	294

- ・組織向けアンケートは、提言第 10 号までのアンケートで回答数は平均 1174、回収率は平均 14.0%であったが、提言第 11 号 Web アンケートは回答率は 1.9%、Web サイトアクセス数 4.2%に留まった。
- ・個人向けアンケートは、回答数が 40 件であった。
- ・集計結果（詳細）は、別紙参照。

9. アンケート実施後の評価

① 【組織】

- ・回答率が低下した要因を把握するため、医療機関へ電話によるアンケート調査を実施（4月18日～7月7日 計53件）。



- ・Webアンケートの実施を知らなかった医療機関が83%であった。

➤ アンケートの周知方法に改善が必要である。

② 【個人】

- ・40件の回答のうち、肝生検を実施していない施設が約半数を占め、提言の実践的活用方法に関する意見が少なかった。

➤ 提言書に機構ホームページでご意見箱などを常設していることを周知するなど、テーマとなる医療行為を実践している医療従事者に情報が届くよう改善が必要である。

10. 2022年度 提言アンケート実施の方向性（案）

①【組織】

- ・Web アンケート周知方法の改善策

- 1) 提言アンケートの実施を汎用性の高いテーマに絞り（年1回実施）、Web アンケート実施の案内を2回行う
- 2) 機構ホームページ（ホーム画面）に、Web アンケート実施のバナー設置
- 3) 提言書にアンケート実施案内（二次元コード）を記載する

②【個人】

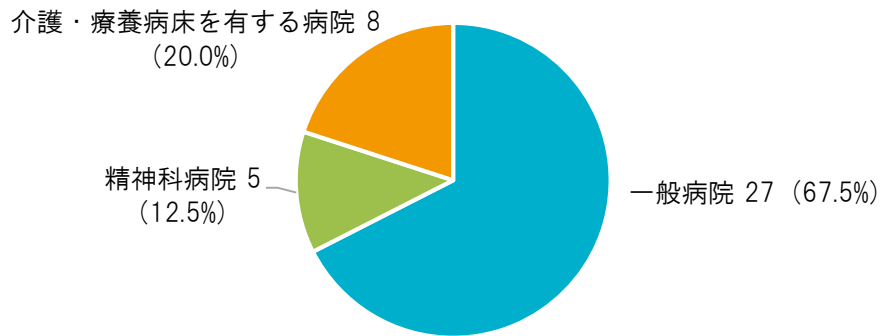
- ・機構ホームページに、提言内容に関する具体的なご意見をいただけるようご意見箱などの常設を検討する。

「肝生検に係る死亡事例の分析」に関するWebアンケート集計結果【組織】

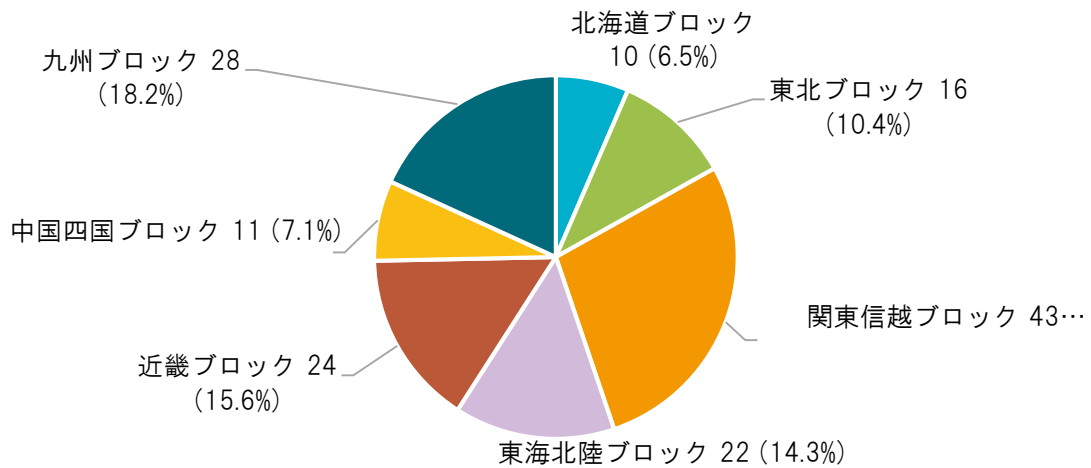
調査期間：2022年2月1日～3月25日
 調査対象：全国の医療機関 8256施設
 有効回答数：154 割合：1.9%

施設について

■医療機関の種類 (n=154施設)

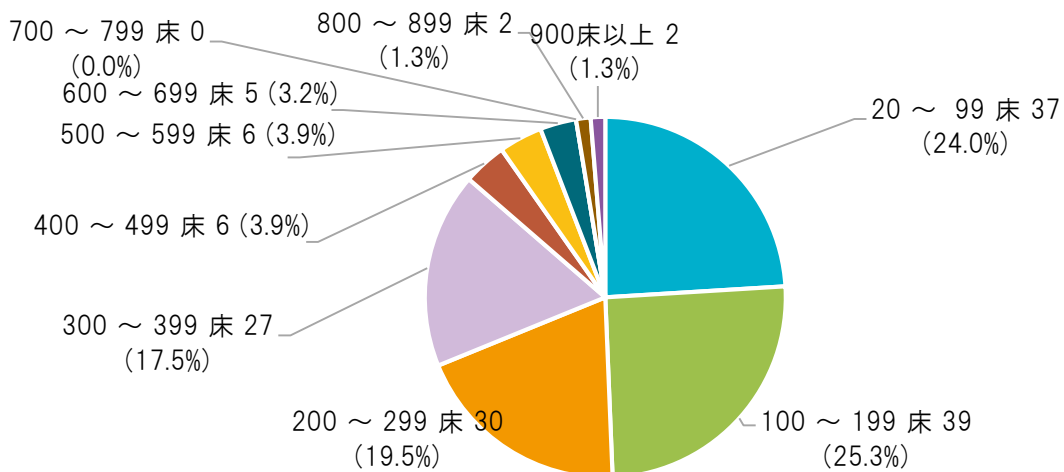


■施設が所在する地域ブロック※ (n= 154施設)



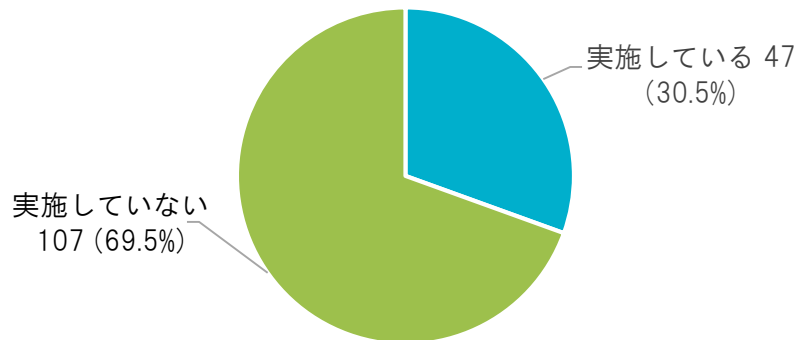
※「地域ブロック」は全国地方厚生局の管轄に基づく分類

■病床規模 (n=154施設)



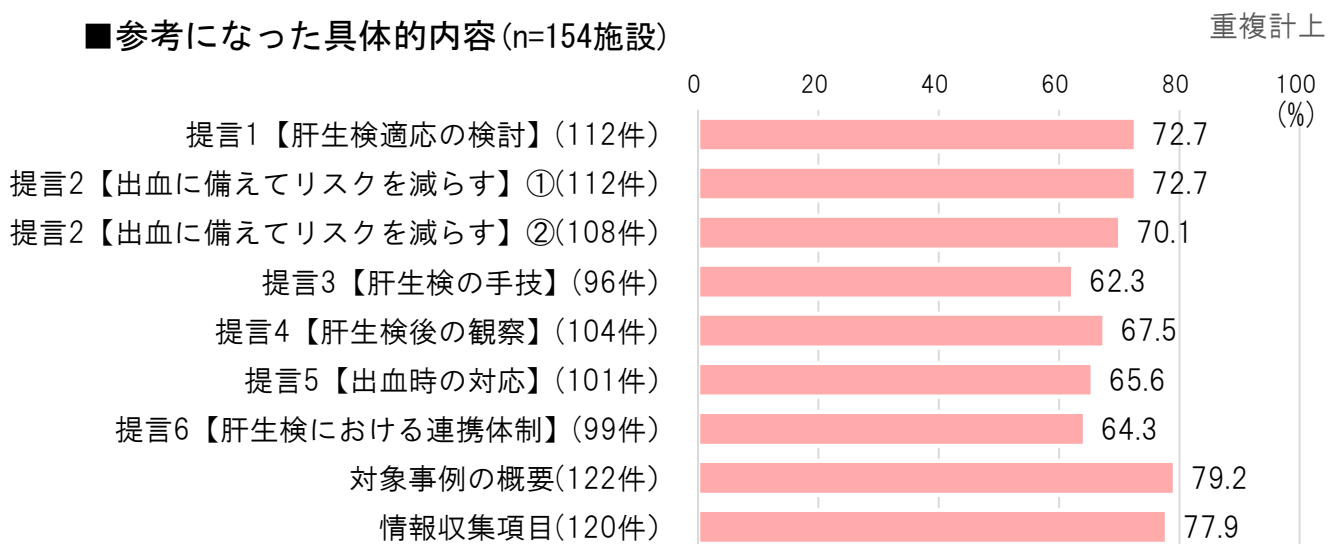
施設について

■施設における肝生検実施の有無 (n=154施設)

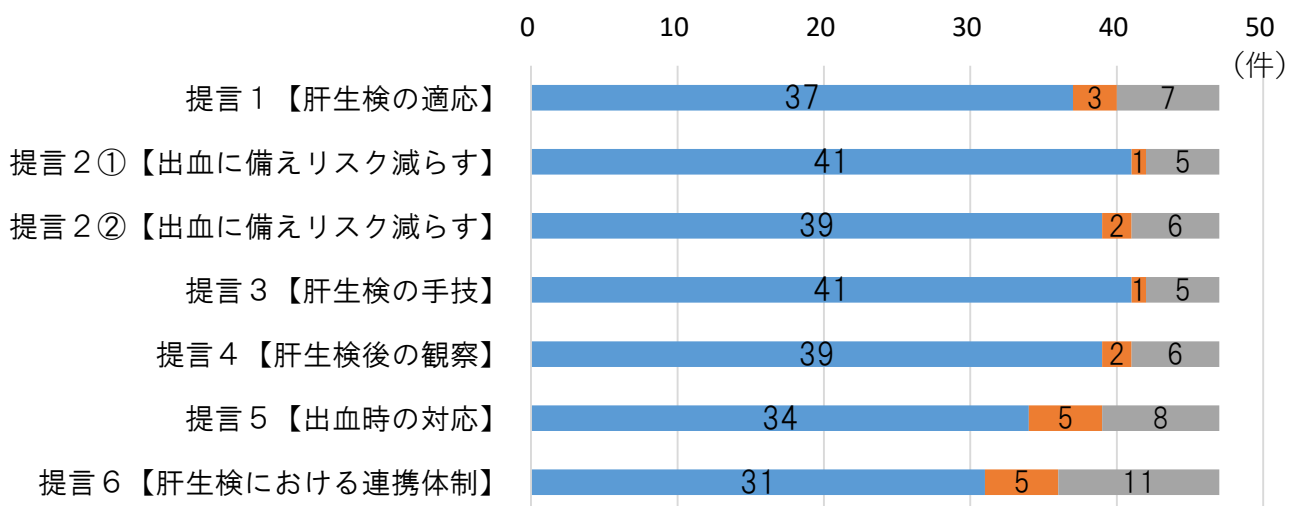


有用性、取り組みの状況

■参考になった具体的内容 (n=154施設)



■肝生検実施施設における提言内容の取り組み状況について (n=47施設)



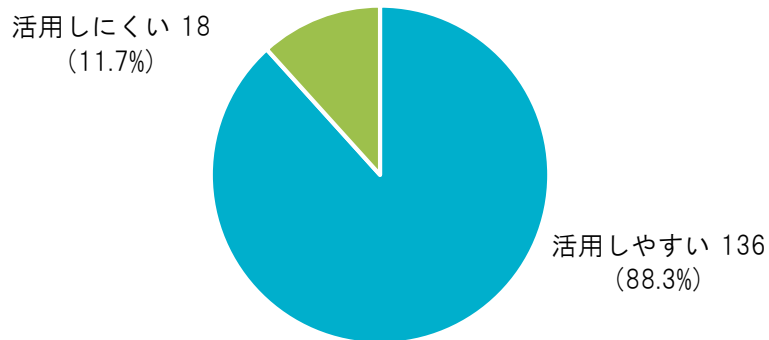
■ 公表前から体制があった

■ 公表前に提言内容を実施する体制がなかった

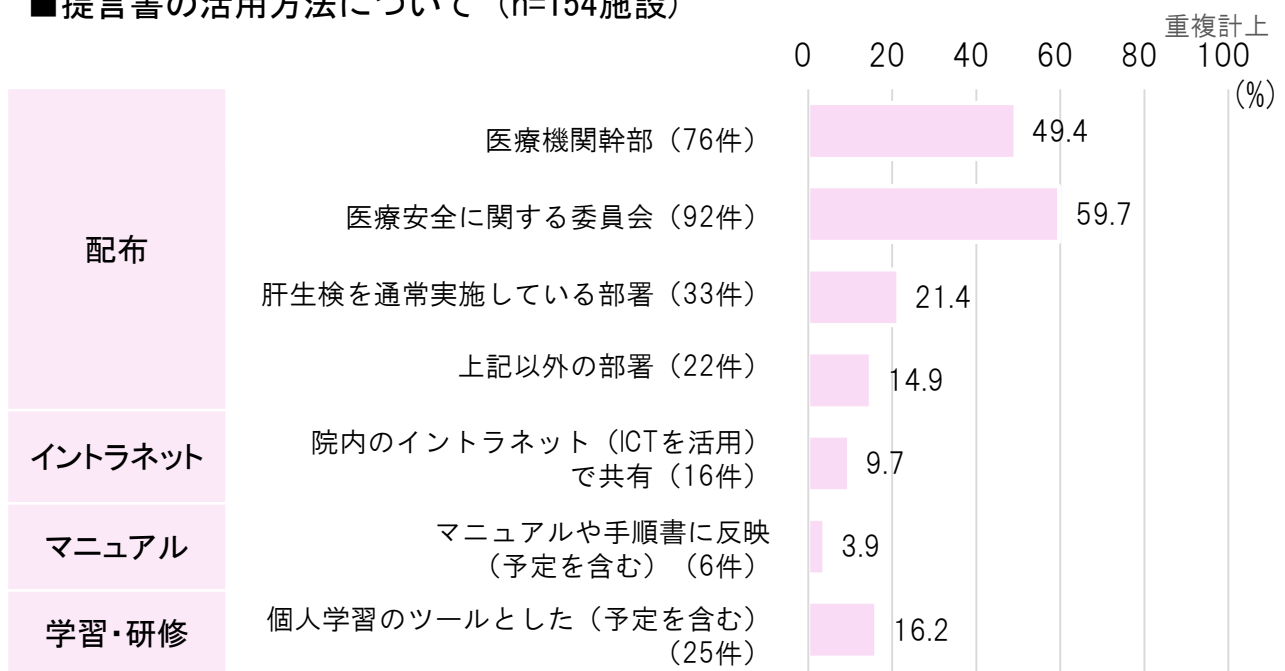
■ 把握していない

提言書の活用状況

■ 提言書は活用しやすいものになっているか (n=154施設)

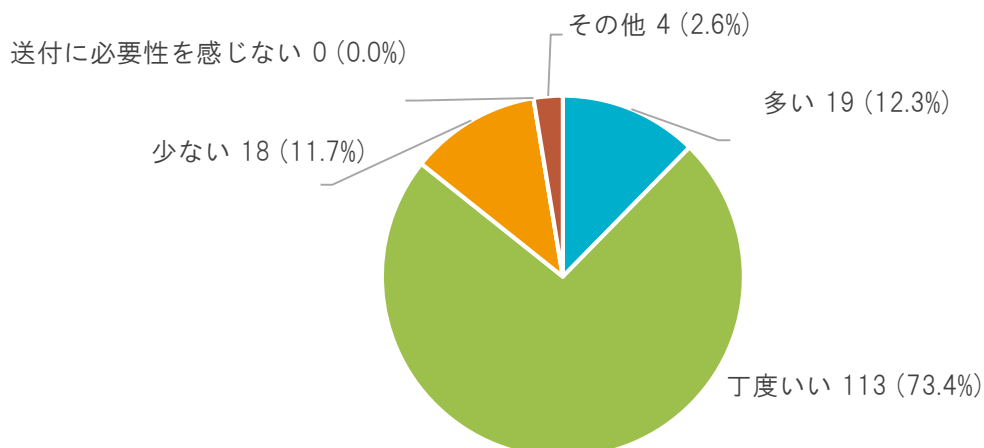


■ 提言書の活用方法について (n=154施設)

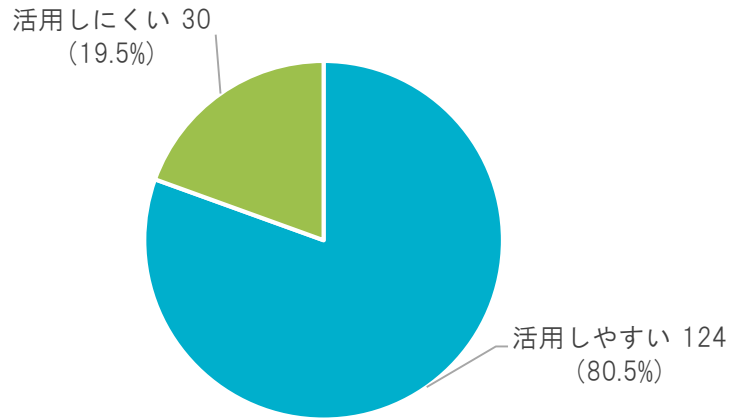


■ 提言書 (冊子) の送付数について (n=154施設)

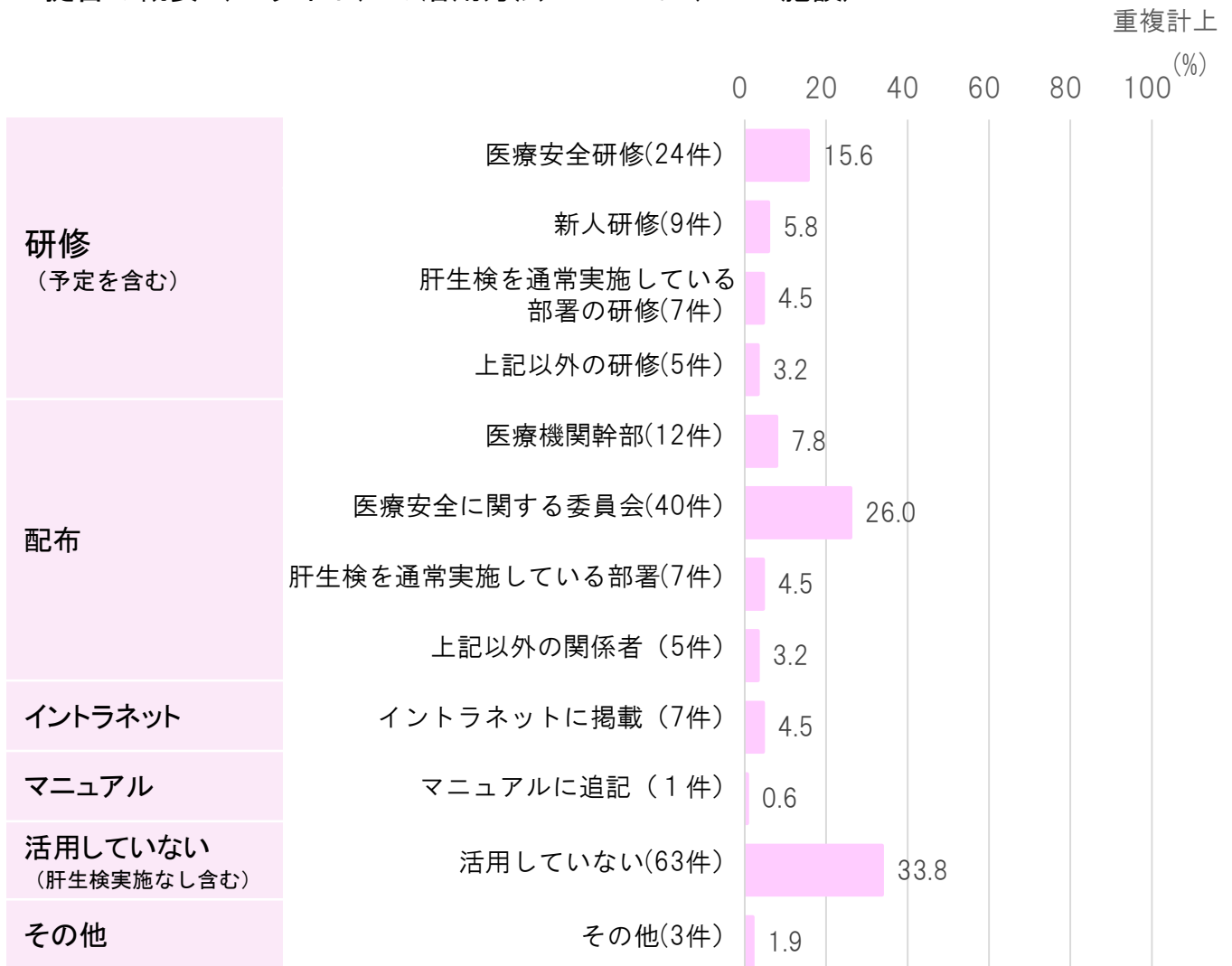
※基本的に1施設20冊送付



■提言の概要（スライド）は活用しやすいものになっているか（n=154施設）



■提言の概要（スライド）の活用方法について（n=154施設）



※その他: 検討中、研修は多職種対象のため、スライドも活用の機会が乏しい等

■自由記載のまとめ（主な意見）

○有用だった ●改善・要望

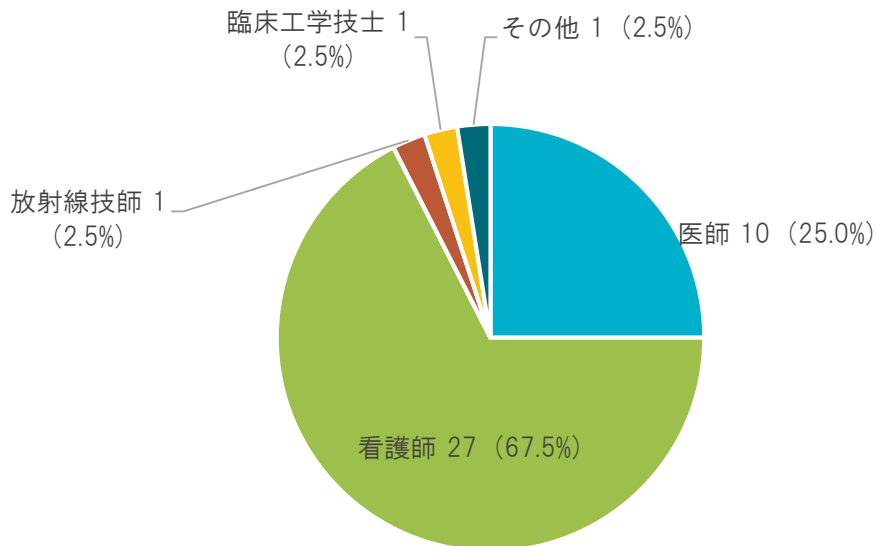
提言1	<ul style="list-style-type: none"> ○出血リスクが高い診療行為であることを再認識した。 ○抗凝固剤の服薬リスクを再確認し、内服薬の中止の必要性も理解でき、内服薬確認の徹底につながった。 ○医師の説明記録や同意書を見直す際の参考になった。
提言2	<ul style="list-style-type: none"> ○入院前の内服薬確認時に有用で、抗血栓薬内服中の患者では処置前に薬の調整が必要なことを認識した。 ○内科疾患を併発している高齢患者が増加しているため、出血傾向の把握についても理解を深めることができた。 ○患者に説明する際に参考になる。
提言3	<ul style="list-style-type: none"> ○使用物品の準備や、介助時の医師との情報共有に活かすことができる。 ○出血リスクがある場合の対策を知ることが出来た。 ○既往のある患者の観察と理解につながると感じた。
提言4	<ul style="list-style-type: none"> ○肝生検後の観察項目、患者の状態変化に対するアセスメントの参考になり、医師への報告基準として学べる。 ○患者の状態変化や看護師から報告があった場合の判断材料になる。 ○若い医師に向けて、肝生検後の観察の再確認となった。
提言5	<ul style="list-style-type: none"> ○出血した場合の初期対応、保存的療法のみならず外科的な止血を検討することが理解できた。 ○出血した場合の組織の安全対策の再評価を行った。 ○患者への説明の参考資料となった。
提言6	<ul style="list-style-type: none"> ○緊急時における他部門との連携の重要性について改めて確認することができた。 ○リスクを伴う検査に対し、多職種で患者・家族へのIC後の確認やフォロー体制を作ることが重要であることを再認識した。 ○各部署に周知できる内容である。
対象事例の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○事例が具体的で、患者の背景・状況と肝生検前後の経過がわかり、データ、内服薬の情報、薬剤の注意点が参考になる。 ○自施設で起きた事例と照らし合わせて考えることができる。 ○事例を通してイメージすることで自部署の現状に照らし合わせることができ、リスク回避につながれると考える。 ○症例の少ない施設では、経験知や情報不足の点が多く、参考にして注意喚起や学びの資料に活用している。 ●出血の有無が曖昧なため、Aiや剖検した症例をもう少し多く提示されると良い。
情報収集項目	<ul style="list-style-type: none"> ○事故発生時の収集すべき情報、収集の視点が明確で、事例検討の指標となり、対策として参考になった。 ○検査の際に何を観察するべきか一目瞭然で、医師、看護師との共通認識が持てる。 ●重要ポイント項目が分かりやすければよいと思う。 ●このままの形での活用方法が分かりにくい、様々な場面での部分的活用(参考)にはつながる。
提言書について	<ul style="list-style-type: none"> ○肝生検のように症例の少ない検査もあるので、今後も事例を通じて学び、参考資料として研修等にも活用したい。 ○実際の事例が載っているので、実施すべきことを定着させたい時に資料として活用している。 ○改善活動を進めるにあたって提言の内容に立ち返っており、大変参考になる。
センターへの要望	<ul style="list-style-type: none"> ●資料の動画配信はどうか。 ●他の提言でわかりやすい動画や資料が掲載されるが、データ容量が大きいためeラーニングに常時掲載することができない。ピンポイントで教育啓発に活用できるようにデータを分割して掲載できないか。 ●医療安全管理者が看護師の場合、医療行為に直接介入するような改善はかなり難しく、専従医師や医療安全管理責任者であっても、専門外であると簡単ではない面がある。肝生検に関わる専門医の領域や専門学会などに直接、医療安全調査機構のような組織から、働きかけて頂きたい。 ●アンケートは医師に回答してもらった方が提言に関する意見などが出るのではないか。

「肝生検に係る死亡事例の分析」に関するWebアンケート集計結果【個人】

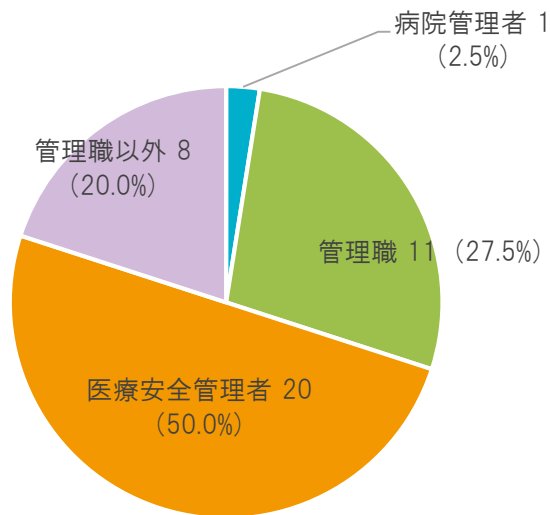
調査期間 : 2022年2月1日～3月25日
 有効回答数 : 40

回答者について

■職種 (n=40人)

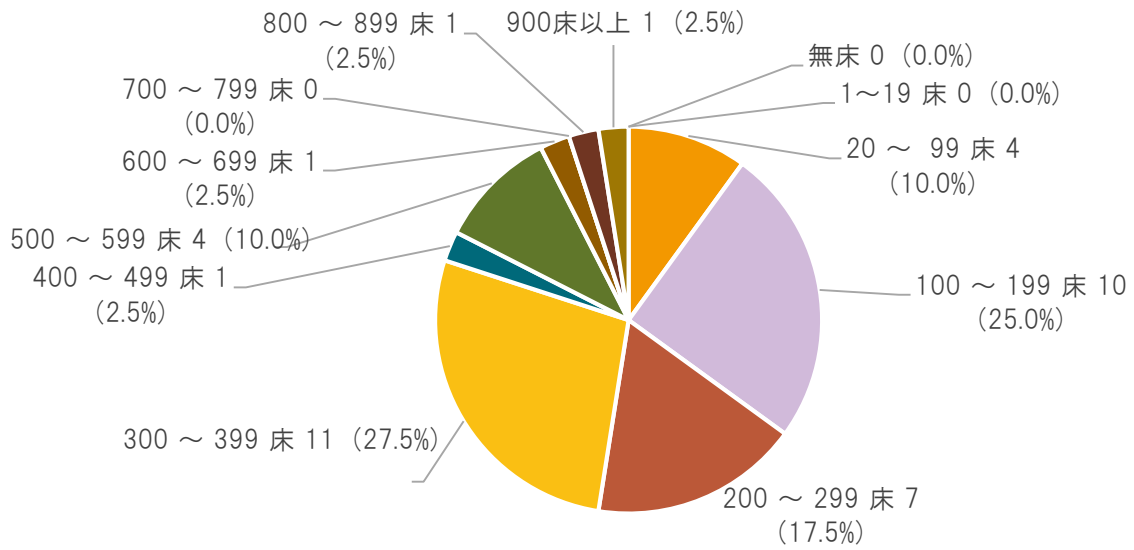


■職位 (n=40人)

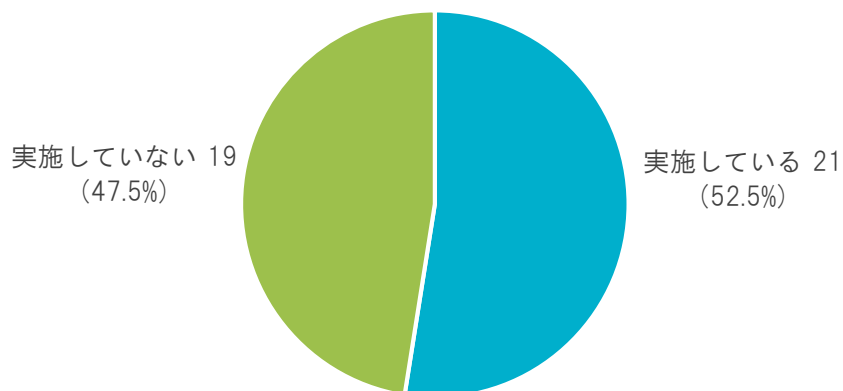


施設について

■ 病床規模 (n=40人)

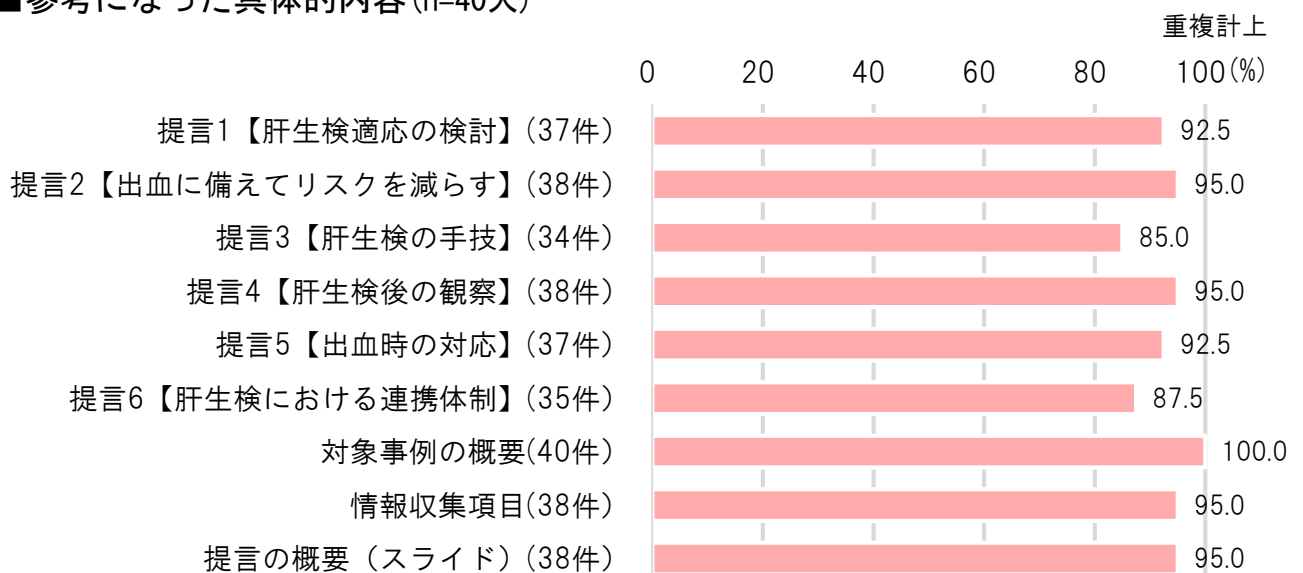


■ 施設における肝生検実施の有無 (n=40人)



有用性

■ 参考になった具体的内容 (n=40人)



■自由記載のまとめ（主な意見）

○有用だった ●改善・要望

提言1	<ul style="list-style-type: none"> ○観察をする際に異常の早期発見を医師と共に検討できる。 ○透析患者が多くいる病院のため、注意喚起として有用であった。 ●具体的な数値を示してくれると良い。 ●血小板減少などの数字が明確ではないので、理解しにくかった。
提言2	<ul style="list-style-type: none"> ○転院患者の情報にあった場合、リスクの検討に役立つ。 ○休薬に関するコンサルや患者、家族に対する協力が参考となった。 ○提言を参考に医師に指示確認しやすい。 ●リスクがある場合は中止や延期する事は理解できるが、ベネフィット判断が難しい。 ●提言2の②で輸血後の止血機能の評価はどの様にすればいいか、もう少し詳細に記載を頂きたい。
提言3	<ul style="list-style-type: none"> ○細い針、穿刺回数を少なくするという対策が明確だった。 ○ルーチン手技であるため、理解しやすかった。 ○使用物品を準備する際は院内手順にそって穿刺針の準備をしているが、適した針のサイズ、穿刺の回数など現場で指導しやすい。 ●出血リスクの高い患者の指標が不明確だった。
提言4	<ul style="list-style-type: none"> ○出血を示唆する所見が明確に書かれ、出血の痛みの発生機序が理解しやすかった。 ○遅発性の出血の可能性を示唆していて、注意喚起のために役立つ。 ○観察ポイントがわかりやすく、パスに組み込める内容だと感じた。 ○現場で観察しているのは看護師なため、異常時医師に報告しやすい。
提言5	<ul style="list-style-type: none"> ○止血法の選択が参考になった。 ○動脈塞栓術やラジオ波焼灼術などで止血が難しい時は、外科的な止血術になるなど段階で行うことが理解しやすい。 ●対応について読み物でなく、視覚的に簡単に分かるような記載方法、箇条書きやチェックリストのようなものがあるとよい。
提言6	<ul style="list-style-type: none"> ○肝生検を施行する診療科や他科も含めて、患者に関わる多職種の医療従事者が連携して対応する体制を構築するという対策が明確だった。 ○チーム医療、連携の重要性がまとめられ、連携エラーについて理解出来た。 ●連携と言っても日々の診療の中では困難な場合があり、連携構築は難しい。
事例概要	<ul style="list-style-type: none"> ○さまざまな症例が背景を含めよく理解でき、一目でわかるため活用しやすい。 ○患者状態の把握学習会に使用出来そうである。 ●今後も同様の事例があれば、掲載頂きたい。
情報収集項目	<ul style="list-style-type: none"> ○見逃しやすい事が再確認出来、チェックリストでわかりやすい。 ○表記されている項目を理解することで、予防対策になるのではないかと思われた。 ○事例が発生した時に活用したい。
提言の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○カラフルでわかりやすく、資料として提示しやすい。 ○提言書を職場で共有する際に活用したい。 ●図式で理解しやすい。同じものが、提言書にも記載されていると嬉しい。
全体	<ul style="list-style-type: none"> ○解説がわかりやすかったため、今後も解説を重視して頂きたい。